

基礎薬学特論Ⅲ

責任者：名取 泰博 教授

担当講座（科）：衛生化学講座、細胞病態生物学講座、分子細胞薬理学講座

講義 15時間
単位 1単位

学年

4学年 後期

学習方針

基本理念：

基礎薬学特論Ⅲでは、衛生系・生物系・薬理系の4年間の薬学教育の復習とまとめを行い、各科目の知識と技能を統合して考察する能力を身につけることを目的とする。従って、授業は各担当講座が分担して行い、広範囲の分野に渡る知識を体系的に学ぶ。更に、これらの学習を基礎として、より専門性の高い最先端の知識や技術に関しても学び、専門知識を総合的な観点から有機的に体系づけて学習する。

一般目標（GIO）：

衛生化学Ⅰ、衛生化学Ⅱ及び環境科学で講義した内容の中から、環境衛生及び毒性学を中心に、他の専門科目を学んだ上でさらに理解が深められることがらや、国内外で変化が起きている話題を選んで概説する。

細胞生物学及び病態生化学の講義で学習した事項から特に重要なものを抜粋して復習し、関連する知識を整理統合する。また、がんや炎症に関する最新の臨床診断や治療法に関して概説し、今後の展開や問題点を理解する。

一連の薬学分野の講義及び薬理学実習に関する基礎知識の再確認と総まとめを行う。以て、臨床薬学系科目の学習への薬理学の活用と、円滑なる実務実習への橋渡しとなることを目指す。

到達目標（SBOs）：

1. 環境破壊の現状とその対策について、その概要を説明できる。
2. 環境汚染物質の現状とその対策について、その概要を説明できる。
3. 有害化学物質のヒトの健康への影響とその対処法の概要を説明できる。
4. 細胞の構造と機能に関与する生体分子をあげて、概要を説明できる。
5. 細胞内情報伝達に関与するメディエーターをあげて、概要を説明できる。
6. がん、炎症、アレルギーに関与する遺伝子・タンパク質・治療薬の概要を説明できる。(☆)
7. 薬物の作用する仕組みについて、その概要を説明できる。
8. ヒトの身体の構造と機能について、その概要を説明できる。
9. 薬物の有効性と有害作用について、その概要を説明できる。

10. 代表的な薬物の効果の観察と作用機序を関連付けて説明できる。

講義日程

月日	曜	時限	講座(科)名	担当者	内 容
8/25	木	1	衛生化学講座	名取 泰博 教授	環境衛生の諸問題
9/ 1	〃	〃	〃	〃	環境因子と健康
9/ 8	〃	〃	〃	〃	有害化学物質によるヒトへの影響
9/15	〃	3	細胞病態生物学講座	北川 隆之 教授	細胞の構造と機能
9/22	〃	〃	〃	〃	細胞内情報伝達と炎症・治療薬
9/29	〃	1	〃	〃	がんの細胞生物学と分子標的治療薬
10/ 6	〃	〃	分子細胞薬理学講座	中山 貢一 教授	薬理学総論
10/13	〃	〃	〃	弘瀬 雅教 教授	生体の仕組みと働き
10/20	〃	〃	〃	〃	安全薬理学
10/27	〃	〃	〃	中山 貢一 教授	薬理学演習

教科書(教)・参考図書(参)・推奨図書(推)

	書 名	著者名	発行所	発行年
教	衛生薬学 改訂第2版 (衛生化学Ⅰ、環境科学)	佐藤 政男 ほか	南江堂 (定価 7,000 円)	2008
教	細胞生物学 (細胞生物学Ⅰ、Ⅱ)	永田 和宏 ほか	東京化学同人 (定価 2,400 円)	2006
教	人体機能生理学 改訂第4版 (薬理学Ⅰ)	杉 晴夫 他	南江堂 (定価 10,000 円)	2008
教	薬理学マニュアル 改訂4版2刷	高柳 一成 他	南山堂 (定価 4,800 円)	2008
教	New 薬理学 改訂第5版 (薬理学Ⅱ、Ⅲ)	加藤 隆一 他	南江堂 (定価 8,800 円)	2008
教	NEW 医薬品の安全性学 第2版 (医薬品安全性学)	吉田 武美 他	廣川書店 (定価 4,600 円)	2010
参	スタンダード薬学シリーズ4第2版 「生物系薬学Ⅱ 生命をミクロに理解する」	日本薬学会 編	東京化学同人 (定価 5,500 円)	2010

成績評価方法

出席、レポート、試験等から総合的に評価する。